

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2772401895		
法人名	社会福祉法人まりも会		
事業所名	グループホーム樹の実		
所在地	573-0137 大阪府枚方市春日北町4丁目1-20		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム樹の実は設立10年目をこの春に迎えました。社会福祉法人まりも会が「地域の高齢者の為に役に立てる施設を作りたい。」「地域で安心していつまでも暮らしたい。」と望んだ思いを抱き、前進に繋がたいと考えています。地域のさりげない関わりはこの9年間の歴史の中でしっかり培われ、これからはその関係性を土台に、もう一歩の前進を踏み出したいと考えております。同法人の保育所や障害者施設との連携はもちろん、他事業所とも介護保険制度の関係だけでなく、地域の施設間の関わりの中で催し物への参加や助け合い、又地域の方々の寄り合いの場になればと、歌や踊りの披露の場としても活用いただいています。認知症介護を行う地域密着型事業所としても、デイサービス ショートステイを持ち、地域支援に積極的な関わりを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「人権を尊重した社会事業を行なう」地域住民と力をあわせ、社会福祉を発展させる為の役割を果たすを基に、新人職員研修時に理念を伝え理解に努めている。又、会議の中施設内研修で理念について確認を行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「納涼盆踊り大会」や近くの施設からの「祭り」のお誘い、公園までの散歩道、地域の方との会話等、さりげない関わりは出来ているが、地域の一員としての働き掛けを今年は目指したいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、老人会のサロンへの参加や祭りへの参加、推進会議への地域の方の参加など貢献という内容には、至っていない。しかし本年度は地域の方に認知症のお話をする機会を増やし、地域の方が気軽に寄って頂ける、地域に役立つグループホームとしての役割を果たす為の働き掛けを実施したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの支援経過報告を行いながら、(事業所の動きや入居者の様子などの全体像等)現在の課題や地域との関係作りの工夫について話し合いを行なっている。地域の方や包括支援センター、家族様からのご意見や希望を反映できるように、職員会議で内容の報告を行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課・担当職員とは日常的に相談、協議できるような関係になっている。電話や面談にて実情を伝えたり、サービスに係る相談などを積極的に行なっている。また地域包括支援センター主催の「グループホーム東部地区連絡会」の定例会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への学習について、各フロアにて会議で話し合い、身体拘束の無い暮らし(支援)を目指し、取り組みを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待とは」についての学習は、まだまだ不十分であり、今後研修参加を行なっていく必要がある。現時は、施設内での行動や行為の中で「何が具体的に虐待につながるのか」等を、職員会議にて管理者より確認を行い、「虐待に繋がる行為はしない」ことも話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時同施設では権利擁護に関して、職員が学ぶ機会があまり無く、本年度の研修計画の中に、権利擁護に関しての制度への理解について取り組み予定となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでも十分な説明を行なっているが、契約時にも最低1~2時間の説明を行い、理解と納得につなげている。特に不安や疑問点については具体的なケアの例などを示しながら方向性を確認できるような話し方に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的には職員が直接窓口となり、話をゆっくり聞いて対応し、必要な内容は管理者に知らせている。又、「意見箱」を設置し、自由に思いを伝えられるよう配慮している。苦情を伝えていく第三者機関のお知らせも掲示している。家族の来所時、入居者の方の状況や経過をお伝えすると同時に、ケア内容への希望や要望は無いかを聞くように努めている。又、苦情発生時は速やかに管理者につなぎ、苦情発生時手順に従い改善に向けて取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は「何でも聞きますよ。言って下さい。」と親しみやすい。管理者としては、職員さんとの関係性の構築が、運営上最も大切であると考えており、職員さんの思い《考え・悩み》をしっかりと聞く姿勢を持っていきたいと思っている。その中で運営についての話や、理解を経て、目標に向かい議論の出来る関係作りを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めようとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は事業計画の中で人材育成の立案を行っており、職員間での内部研修や、現場責任者からの指導、相談助言の時間を作るよう計画している。また、他施設研修の導入などの実施にて、介護支援の幅を広げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の、3ヶ月に1回開催される東部地区グループホーム連絡会への参加を行なっている。その会での世話役を努めながら、地域密着事業所としての位置づけを踏まえ、地域支援のきっかけ作りを行なっている。又「枚方市介護支援事業所連絡協議会」「認知症学会」「大阪府認知症グループホーム連絡会」等に加入し、情報交換や、事業所間連携を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何かを開始する前には、本人の意思・思いを聞くよう心掛けていますが、不安な思いより、したいこと、好んでいることの方が、聞いている様に思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家人様の思いも聞き、ケアプランにもものせて、全体で対応できるような体制であると思う。来所時、その都度、ゆっくり話せる時間をもっと少し作れるようにしたいと思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家人様の思いを受け止め、様々な医療機関、福祉サービス(デイ)、地域行事等、できる範囲で幅広く対応していると思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全て「介助」とするのではなく、できる事は手伝って頂き、人生の先輩として、時には知識を学ばせて頂き、そのような関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人様にも料理をしに来て頂いたり、時には外出せて頂いたり、ご協力の得られるものは、協力して頂いていると思うが、もっと来所してもらえるような工夫や、声かけも必要かと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに来られるまでに大切にしてきた馴染みの方や、場所の情報があまりなく、関係継続の支援はほとんどできていない現状にあると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士(スタッフ抜きでの)の、関わり合いは難しいので、できるだけ皆さんで、できるレクの取り入れを心掛けています。また、好き嫌いがあっても孤立しないようには努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方、入院中の方で、家人様の了承のある方に関しては、数ヶ月に1回でも面会に行こうと思ひ、面会に行くようにしています。その際、写真を持って行ったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が取りにくくなってきており、ご本人の思いに付いても「これが良いのか」と模索しながら進んでいる。希望や意向を把握する為に、ご家族様とのカンファレンスも行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集に努めるも十分とは言えず、ご本人の関係者の方々からお話をお聞き改めて知る事も多くある。その方が過ごし易くなるための発見はこれからも重ねて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	樹の実では、健康管理表をチェックシートを記録する事や、いつもと違う様子の有無を把握しながら、生活面での動きの積極化に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員との会議を持ち、家族様との話し合いも重ねながら、現状に即した介護計画を作成しようと努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場職の記録の確認と毎日の申し送りへの参加にて状態を把握しており、モニタリングや6ヶ月評価 計画立案の際には役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のかたがたとの関わりを蜜にしているホームです。犬の散歩中に会話が弾んだり、花や野菜を頂いたり、関わることで社会性を発揮できる場面が自然に出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	樹の実では開かれたホームを目指す為に、事業所に関わってくださる機関の拡大を図り、その点を特徴としている。現場職の支援だけでなく、外部から来られる方々 ボランティアさん等の協力を得ながら、入居されている方々の力を引き出す関わりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診や訪問看護の来所に対して、事業内の看護師が医療機関対応を行っており、関係性の構築に繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場職は入居者の方々の変化や、異変を速やかに事業所内の看護師につなぎ指示を仰いでおり、受診や入院の必要のある重篤な状態の場合は、積極的に看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内看護師が入院用の情報提供書を作成しており、入院時には病院関係者との情報交換がスムーズになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず御入居の際に重度化や終末期の方針へのご同意を頂き、重度化する危険があると感じた際に再び説明の機会を設け、終末期に近づく中で繰り返し確認作業を行う。必要に応じて、担当医や他機関の方々を含んだ会議を行い、チームにて対応をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的には大まかな応急処置のみで、急変時にはいかにスムーズに、救急隊を呼ぶかを徹底している。ホームの各事務所には、急変時の対応マニュアルを添付し、全職員への周知を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画を立て、避難訓練については計画に従い実施している。又地域の方々にも、運営推進会議等にて、地震の際には、当事業所を避難場所に使ってくださっても、構わない事を話している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊重と敬意を持って接するようになっているが、時折、言葉かけが親しくなりすぎている時があり注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるような声かけをしようと心掛けています。思いが言えない方は、行動などで思いを読みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、何がしたのか等を寄り添いながら感じるように心掛けています。但し、その方が一日をどのように過ごしたいのかについては、聞き出すことはほんの一部の方しか出来ない状況である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前はおしゃれもされていたが、症状が進み今は難しくなっている。しかし整髪や髭剃り等の身だしなみの支援は、毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いに関しては、希望に合わせて準備に参加して頂き、役に立てると言う達成感を感じて頂いており、食事摂取に関しては、嗜好にあわせたメニューの提供を食材業者との月に一回のカンファレンスで調整を行い、最後まで口から食事が摂れる工夫を目指している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない時には、ご本人の嗜好に合わせて、(ポカリやココア等)飲み物をお出しし水分摂取を促している。摂取しやすい形態(ゼリー・トロミ等)に変えて、出きるだけ継続的に水分や栄養摂取が続く支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促し、声かけは毎日行っているが、理解が出来ない方については、状態を見ながら対応するも充分とは言えない。ハブラシ等も本人に合わせて、小さいもの子供用など工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、オムツを使用している。オムツを使用することで、精神面での安定が図れる等、理由はあると思う。今後はもっと個別の排泄パターンの把握も必要になってくると思うので、把握に努めたい。時間や本人の行動を見てできるだけトイレを促したり、本人の不快が無い様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便に良いヨーグルトやバナナは積極的に摂って頂いている。現在は便秘にならない様、薬でコントロールしている方が多い現状にあると思うので、少しずつ薬がなくなればよいと思う。便秘時には腹部マッサージや共にきばることを促したり、水分摂取には注意をし、働きかけるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は、本人の希望に合わせているが、入っていない日が続いてしまっている際は、本人の希望ばかりを優先できない状況もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の様子を見て、休息してもらったり、安眠できるように安心感を与えるような声かけ、ボディータッチ等させてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変更になった際には、その都度申し送りをして把握に努めている。副作用については、ホーム看護師からの注意が入るなど、又担当薬局からの説明を受けるなど、徹底し安心頂ける服薬支援の提供を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにゆっくりと関わり、個別の楽しみごとができる時間が実際には作れていないと思うので、今後は一人ひとりの楽しみごとの時間が作ればよいと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って、その都度出掛けることは実際にはできていないので、数人で出掛けられる日は、なるべく出掛ける(散歩etc)よう、心掛けています。家人様にも協力してもらえ環境作りを、もっとしていくことも大切と思う。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2Fでは、本人様にお金を持って頂いていない。無くなったりしていないか把握できる環境を作ることで、持ってもらえることは可能かもしれないと思うが、トラブルが起きた時の対処法も考えておく必要があると思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、TELや手紙の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が皆、快適と思える状態を作るのは難しいと思う。支援としては、季節感を感じてもらえる様に、壁画の作成をしたり会話の中に季節感を取り入れたりしている。又肌で季節感を感じていただけるように、朝には光を感じ、外気を取り入れ、空気に触れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様が望む場所でくつろげるように支援している、共用空間にはベンチ、ソファ、イスが所々にあり、思い思いに過ごせる状態になっている。又、独りになりすぎないように、気にはかけて声をかけるようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみ物を御入居の際に必ず持参頂き、できる限り自宅に近い居室環境を目指している。写真や本 趣味の道具などは見えるところにおいて頂き、寂しさを感じ難いにくい配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは本人にしてもらい、生活力を落とさないようにし、意欲を持続できるような支援を心掛けている。		